



ふくおか胃腸クリニック 中島 功紀 理事長

### 発見が早いほど治療もシンプルです。

最近ではストレスからくる胃腸の病気が増える傾向が見られます。そのうち、が

多かったので、近年は期のうちに見つかることが完治の欧米化が進んだこととで大腸がんが右肩上がりと手術や複雑な治療が必要になることが多々あると懸念されています。女性に多い特徴があります。発見の場は大腸がんが早期に発見され、身体的にも経済的にも負担が軽いです。健康な人でも年齢を重ねても大腸がんも中年以降の方の割合が高くなる傾向があります。免疫力も低下し、がんなどの病気にもかかりやすくなります。40歳以上の方や近親者にがんやポリープの患者がいる方は必ず検診を受けてほしいと思います。

# “自覚症状がない”では油断できないう。今の健康は早めに発見できたからこそ。

## 手遅れにならずに 済んで良かった。

昨年11月のある日、鈴木さんの携帯電話が鳴った。ふくおか胃腸クリニックからだった。「自分はんなんだと確信した瞬間でした。内視鏡検査での診断は胃潰瘍(かいよう)。念のため組織検査をして、1週間後に結果を伝えるので再来院をと言われていました。まだ2日しかたっていないのに連絡がきたのです。10月に会社の定期健診で平日人間ドックを受けて胃の変形が見つかり、要精密検査に。その後ふくおか胃腸クリニックで内視鏡検査を受診した。結果は初期の胃がん。

「意外に冷静に受け止めたのですが、体の調子はまったく悪くないのがんができていたというのは恐ろしいと感じました」と鈴木さんは振り返る。食生活が乱れていたわけでも大きなストレスを抱えていたわけでもない。休みの日は水泳やウォーキングで運動不足を解消。がんになる原因は思い当たらなかった。ただ実母ががんを患っていた。同クリニックに治療先として紹介された総合病院でさらに詳しい検査を行った。「がんが早期発見できたというので、幸いにも転移はなかったの胸をなで下ろ

## 不摂生とは無縁 だったのに。

高崎さんは3人の子どもの父親。平日は仕事であり子どもたちと遊ばない分、休日にはたっぷりと相手をする。慌ただしい毎日でも、幸せいっぱいの高崎さん。ちょっとした気掛かりなことが起ったのは2008年の秋のこと。会社の健診で便潜血陽性と診断され、腸の精密検査を促されたのだ。

「少し不安を感じつつも体調に異変はないし、きつと大したことはないという気持ちもありました。仕事が忙しい時期だったこともあって、ふくおか胃腸クリニックに検査に行ったのは健康から約4カ月後の09年3月。大腸の内視鏡検査でポリープができていたことが分かって驚きました。ポリープの中にはがん化するものもあるので侮れない。5月には同クリニックで内視鏡によるポリープ切除を行った。

### 元気人ファイル③ 鈴木 倫成さん (太宰府市・会社員・57歳)

心当たりがありますか？  
**リスクポイント**  
「胃がん編」

- ◆食事の時間が不規則である。
- ◆塩分の高いものや刺激物の摂取が多い。
- ◆ストレスが多い生活をしている。
- ◆過度の飲酒喫煙をしている。
- ◆近親者に胃がんを患った人がいる。

### 元気人ファイル④ 高崎 弘志さん (福岡市博多区・会社員・36歳)

心当たりがありますか？  
**リスクポイント**  
「大腸ポリープ編」

- ◆近親者に大腸ポリープを患った人がいる。
- ◆脂っこいものを好んで食べる。
- ◆運動不足である。
- ◆40歳以上である。
- ◆便秘気味である。

## 欠かさずに定期検診を受けましょう。



ふくおか胃腸クリニック 竹原 佳彦 院長

胃腸の主な検査には内視鏡検査とバリウム検査(エックス線写真)があります。それぞれの特徴があり、例えば内視鏡検査ではバリウム検査では分からない平たんな病変やその色調をとらえることができ、鈴木さんも行った細胞の一部を採取しての生検も可能です。ところで、鈴木さんの場合は内視鏡検査の時点で胃がんを疑ったのですが、生検で100%の結果が出るまでは告知を控えました。一方のバリウム検査は病変の凹凸を見たり、広がりを確認するのに適しています。大腸がんや大腸ポリープの疑いのある人をまず拾い上げるために集団検診などで広く実施されているのが、大便の潜血反応検査です。

●ふくおか胃腸クリニック 福岡市博多区上呉服町10-10 呉服町ビジネスセンター2F ☎092(272)1711

●がん検診に関するお問い合わせは、各市町村担当窓口へ